

株式会社 アントール 環境行動計画

平成25年11月 6日

取組方針

株式会社 アントールは、『日頃の小さな工夫の積み重ねが、大きな技術の改善につながる』ことをモットーに、顧客ニーズにあった建設工事などを行っています。

また、当社の事業活動を進めていく中で、環境保全が重要課題の一つであることを認識し、地球環境との調和、地域社会との融和を図りながら進歩・発展していくことを目指していきます。このため、私たちは、事業活動に伴う環境への負荷を少なくするために、以下の取組を社員一丸となって推進します。

- ① 事業活動中での省エネルギー（電力、燃料の消費についてムダを省くよう適切な管理を行うこと）と省資源（紙使用量等の節減・節水）
- ② 建設工事部門、事務部門における廃棄物の削減
- ③ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底

この方針に基づいて社員一人ひとりが自主的に環境保全活動に取り組むために、取組方針と取組目標及び具体的な取組内容を全社員に周知します。

平成25年11月 6日

株式会社 アントール

代表取締役 川上 孝一

文書番号・文書名	制定日	H25年10月 1日	担当		
25・26年度環境環境負荷の低減目標設定	改訂日	年 月 日			

低減目標についての基準年度は、いずれも平成24年度(平成24年4月1日~平成25年3月31日)平成25年度二酸化炭素の総排出量(平成25年4月1日~平成26年3月31日)は3%削減を目標とし、産業廃棄物、紙、水使用量の排出量削減目標も3%とする。

平成26年度二酸化炭素の総排出量(平成26年4月1日~平成27年3月31日)は5%削減を目標とし、産業廃棄物、紙、水使用量の排出量削減目標も5%とする。

目標1 二酸化炭素の総排出量削減/売上高当たりkg-CO₂/百万円

基準年 平成24年度 (H24年4月~H25年3月) 排出量(実績) 124.0 kg・CO ₂ /百万円	目標年1 平成25年度 (H25年4月~H26年3月) 排出量(目標値) 120.3 kg・CO ₂ /百万円	目標年2 平成26年度 (H26年4月~H27年3月) 排出量(目標値) 117.8 kg・CO ₂ /百万円
---	---	---

目標2 産業廃棄物の排出量削減/売上高当たりトン/百万円

基準年 平成24年度 (H24年4月~H25年3月) 排出量(実績) 0.60 t/百万円	目標年1 平成25年度 (H25年4月~H26年3月) 排出量(目標値) 0.58 t/百万円	目標年2 平成26年度 (H26年4月~H27年3月) 排出量(目標値) 0.57 t/百万円
--	--	--

なお、一般廃棄物については適正な管理を行い、廃棄物の削減とリサイクルに努める。

目標3 紙の使用量削減/売上高当たりkg/百万円

基準年 平成24年度 (H24年4月~H25年3月) 使用量(実績) 2.30 kg/百万円	目標年1 平成25年度 (H25年4月~H26年3月) 使用量(目標値) 2.23 kg/百万円	目標年2 平成26年度 (H26年4月~H27年3月) 使用量(目標値) 2.19 kg/百万円
---	---	---

目標4 水使用量削減/売上高当たりm³/百万円

基準年 平成24年度 (H24年4月~H25年3月) 使用量(実績) 0.22 m ³ /百万円	目標年1 平成25年度 (H25年4月~H26年3月) 使用量(目標値) 0.21 m ³ /百万円	目標年2 平成26年度 (H26年4月~H27年3月) 使用量(目標値) 0.21 m ³ /百万円
--	--	--

文書番号・文書名	制定日	H25年10月 1日	担当		社長	
環境保全に向けた具体的な取組	改訂日	年 月 日				
<p>目標1. 二酸化炭素の総排出量削減（売上高当たりkg-CO²/百万円）</p>						
<p>(1) 平成25年度（H25.4.1～H26.3.31）の排出量削減目標は、3%とする。 （基準年度比）</p> <p>(2) 平成26年度（H26.4.1～H27.3.31）の排出量削減目標は、5%とする。 （基準年度比）</p>						
<p>1) 電力</p> <p>① 当社は二酸化炭素総排出量削減に向かって、全力で努力することを、先ず社内から徹底しなければならない。 常に継続的に、計画的に実行し、その徹底度と効果について、皆で計画的に話し合うことが大切である。 その方法として現在の実施内容を、更に強化する。</p> <p>a) 朝礼（毎朝） b) 提案制度（従業員全員がヤル気を出す） c) 5S徹底（5Sを徹底させることだけでも、二酸化炭素の総排出量は、削減されると同時に、会社の業績は更にアップできる） d) 使用電力量、灯油、LPガス、ガソリン等の使用量を、キメ細かくチェックして異常状態を早く捉えるようにする f) その他</p> <p>② 待機時消費電力量を削減する 使っていない時に機器のプラグをコンセントから抜いても機能的に問題のないTV、洗濯機VTR等については、プラグを抜くようにする。</p> <p>③ 待機時消費電力の小さい製品に、可能なものから交替する。</p> <p>④ 冷房温度（28度）と暖房温度（20度）を守るよう皆に呼びかける。 ポスターを貼り出す。（委員）</p> <p>⑤ エアコンの使用期間中は、2週間に1度フィルターをよく清掃するようにする。</p> <p>⑥ 昼休みの消灯、パソコン、コピー機の電源をこまめに切る。</p>						

文書番号・文書名	制定日	H25年10月 1日	担当		社長							
環境保全に向けた具体的な取組	改訂日	年 月 日										
<p>⑦ カーテンをうまく利用し熱の出入りを防止する。</p> <p>⑧ 蛍光灯や器具にホコリをつけない。</p> <p>⑨ 室外機のまわりをよく見て効果的に室外機を使う。</p> <p>⑩ 冷凍冷蔵庫の適切な使い方をする。 (例) 適当な間隔、つめこまない、庫内の整理と清掃 設定温度 強→中</p> <p>⑪ ムダな部屋の消灯に努める。 a) ポスター（委員）をうまく使う b) 皆に注意の目がいくよう社内風土を盛り上げる</p> <p>⑫ 事務所、会議室、倉庫等夫々適正な照度を使うよう社内をよく見廻る（社内部屋ごとに表示）</p> <p>⑬ お客様に家を建てる時は「省エネ型住宅」を徹底しておすすめする。 高断熱化、高機密化、太陽光、風力、効率電化製品導入等 新築・改築時がおすすめのチャンス お客様から使用後長期に渡って信頼が得られる。</p> <p>⑭ 地中の熱、地中の冷風、地下室、地下倉庫等省エネにつながるものをお客様にどんどん提案していく。</p>												
<p><u>2) 自動車燃料</u></p> <p>当社の平成24年4月～25年3月の例をみても二酸化炭素排出割合のトップは、自動車燃料である。</p> <p>エネルギー種別ごとの二酸化炭素の排出割合</p> <table border="0"> <tr> <td>購入電力</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>燃料</td> <td>7.4%</td> </tr> <tr> <td>自動車燃料</td> <td>74.6%</td> </tr> </table> <p>このことから自動車燃料に注目することが、二酸化炭素の削減に大きく貢献することがわかる。</p> <p>① アイドリングストップの実行（エコドライブに努める）</p> <p>② カーエアコンはこまめに調節する</p> <p>③ 車両の点検整備、空気圧の点検</p> <p>④ エンジンオイルの適正な交換</p> <p>⑤ 共通方向へ作業へ行く時は合同積み合わせ 帰社も同様 積忘れに注意</p>							購入電力	18%	燃料	7.4%	自動車燃料	74.6%
購入電力	18%											
燃料	7.4%											
自動車燃料	74.6%											

文書番号・文書名	制定日	H25年10月 1日	担当		社長	
環境保全に向けた具体的な取組	改訂日	年 月 日				
<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 車に不要な荷物は積まない ⑦ 法を遵守し、安全運転、経済運転を守る ⑧ 会社は車両毎に燃料使用量を測定し、月1回発表する ⑨ ハイブリッド車や低燃費車、低公害車を入れる ⑩ 顧客への資材の運搬ルート、積載量発送時、帰社の時間、道路状況等調べた運行管理を導入する 						